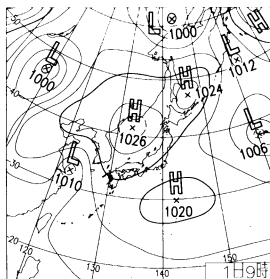


日々の天気図

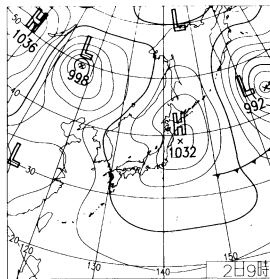
— No. 28

2004年5月

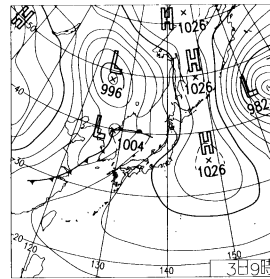
- ・3日～4日、発達中の低気圧と前線により、飯沼市・高知県馬路村で日雨量約200mm、東京の最大瞬間風速29.6m/s。
- ・9日～10日、西日本中心に強雨・大雨にのびる前線が日本列島を横断。全国的に雨。高知県馬路村で15時までに197mm/24hの雨等、九州・四国で100mmを超える雨。関東で南風強し。
- ・13日、近畿地方で40mm/hを超える激しい雨。大阪で浸水・冠水害。
- ・16日～17日、九州や北陸で激しい雨。福井県大野市で37.5mm/h。
- ・30日～31日、九州を中心に関東前線型雨。熊本県阿蘇町で54mm/h。(気象庁予報部予報課)



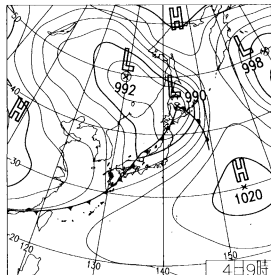
1日(土)西からゆっくり下り坂
北・東日本は高気圧に覆われ晴れ、西日本は高気圧に挟まれた気圧の谷で薄曇り。九州や沖縄は大陸東岸の低気圧の影響で曇りや雨。天気は西からゆっくり下り坂。EU 25か国に、



2日(日)九州・四国でぐずつく
東シナ海に動きの遅い気圧の谷があり、九州・四国は曇りや雨。高気圧の中心が北偏した東北～近畿の太平洋側では気温が低く、1か月逆戻り。北日本や日本海側は概ね晴れ。

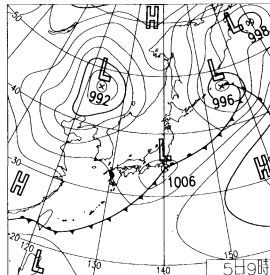


3日(月)関東で冷たい小雨
日本海の低気圧により西日本や北海道は雨。長崎県厳原町では日雨量203.5mm。関東は昼頃まで小雨で、気温は4月上旬並。西日本～南諸島は朝の気温が高く、6月上旬並。



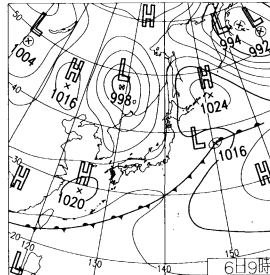
4日(火)前線日本列島を横断

北海道の発達中の低気圧から南西にのびる前線が日本列島を横断。全国的に雨。高知県馬路村で15時までに197mm/24hの雨等、九州・四国で100mmを超える雨。関東で南風強し。



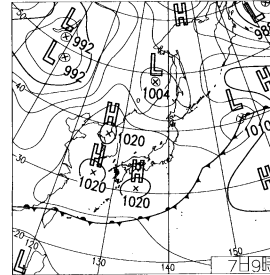
5日(水)沖縄地方梅雨入り

関東沖の低気圧から、前線が南西諸島にのびる。関東は北東気流の影響で冷たい雨。沖縄地方は曇りや雨で平年より3日早い梅雨入り。札幌でソメイヨシノ開花。



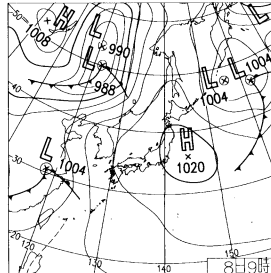
6日(木)エゾヤマザクラ開花

日本付近は帯状の高圧部に覆われて全般に晴れるが、北東気流が入った東北部から関東と、前線に近い沖縄は曇り。旭川で平年より1日早くエゾヤマザクラが開花。



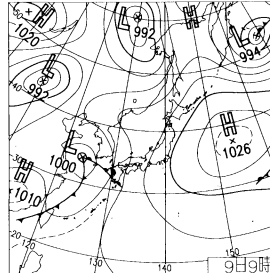
7日(金)西日本で黄砂観測

日本付近は高気圧に緩やかに覆われる。梅雨前線に近い南西諸島も含め、全国的に概ね晴れ。北海道の一部は低気圧の接近により曇りや雨。西日本を中心に広範囲で黄砂を観測。



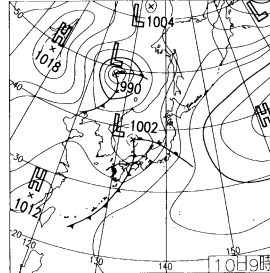
8日(土)九州から雨広がる

上海付近の低気圧からの前線の影響で、九州・沖縄は曇りや雨。四国・中国・近畿は次第に曇り。北・東日本は晴れ。最高気温は全般に高く、大阪市では7月上旬並の28.8℃。



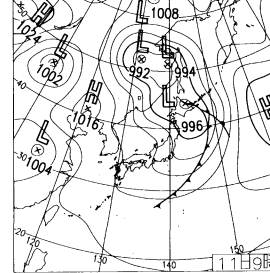
9日(日)九州南部大雨

温暖前線に向かって暖かい湿った空気が入り、西日本の太平洋側を中心に大雨。鹿児島県指宿市で日雨量211mm。東日本や南西諸島も雨。札幌・旭川では桜が満開。



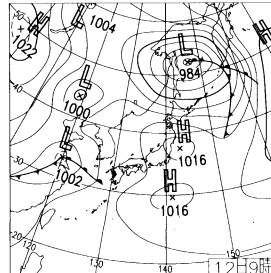
10日(月)高知でホタル初見

日本海低気圧により南西諸島を除き雨。前線の東進に伴い、強雨域も西日本から東日本に移る。広島県油木町で16時に43mm/hの激しい雨。稚内・留萌でエゾヤマザクラ開花。



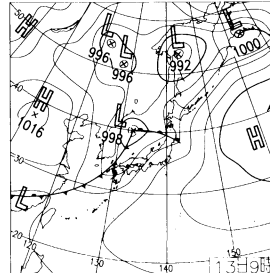
11日(火)関東各地で真夏日

北日本は低気圧の影響で曇りや雨。関東から西の太平洋側や南西諸島は晴れ。関東を中心に気温が上昇し、甲府の最高気温は7月下旬並の31.3℃。東京は今年初の真夏日。



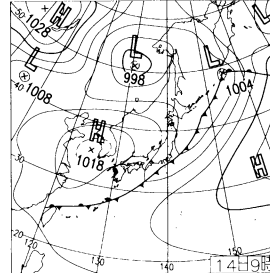
12日(水)最北端・稚内で桜満開

高気圧に覆われ、ほぼ全国的に晴れ。九州は低気圧の接近に伴い夜に雨。日本海側や北海道で気温が上昇し、舞鶴市・豊岡市で31.5℃。日本最北端稚内でもエゾヤマザクラ満開。



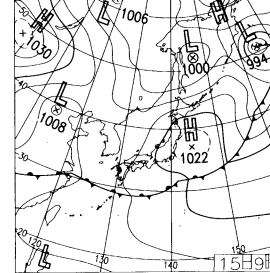
13日(木)奄美地方梅雨入り

日本海の低気圧からのびる前線が日本列島を通過し全国的に雨。西日本では40mm/h以上の激しい雨を伴い、日雨量は100mmを超える。奄美地方は曇りや雨で、平年並の梅雨入り。



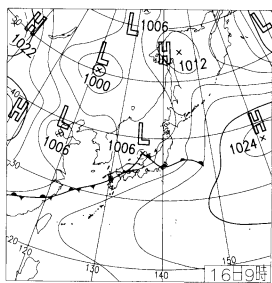
14日(金)台風第2号発生

前線が南下し沖縄は再び梅雨空。東シナ海の高気圧が東に進み、西日本から急速に天気回復。ミンダオ島の東海上で台風第2号発生。根室で平年より6日早くシシヤマザクラが開花。

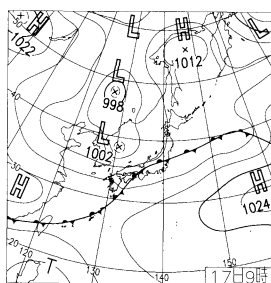


15日(土)北海道で真夏日今年初

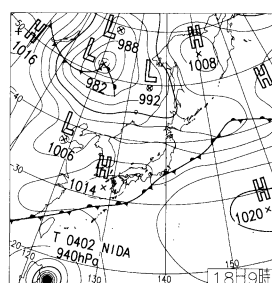
高気圧は日本の東海上に進み、西から低気圧が接近。九州が雨の他は晴れのち曇り。最高気温は北日本を中心に平年より高く、北海道北見市は30.8℃で今年道内初の真夏日。



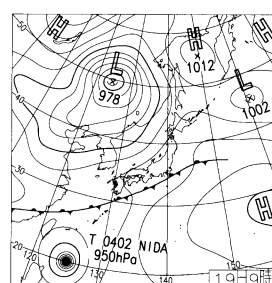
16日(日)梅雨のはしり
 日本海の低気圧が北東進し、南西にのびる前線がゆっくり南下。全国的に雨で、梅雨のはしりの様相。日雨量は九州を中心に100 mmを超え、大分県杵灘では206 mmの大雨。



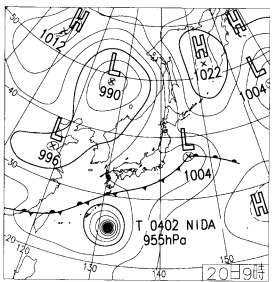
17日(月)甲府最高気温更新
 本州上に前線が停滞し、全国的に曇りや雨。福井県大野市で37.5 mm/hの激しい雨。甲府市は晴れてフェーン現象が加わり、最高気温34.3℃。5月の記録更新。



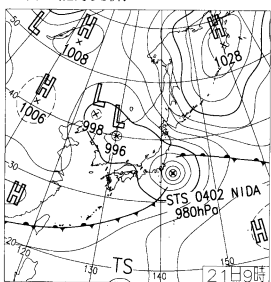
18日(火)台風第3号発生
 日本の南岸に前線が停滞。近畿以西の太平洋側や南西諸島で雨。沖縄県与那国町では46 mm/hの激しい雨。その他は全般に曇り。カロリン諸島で台風第3号が発生。



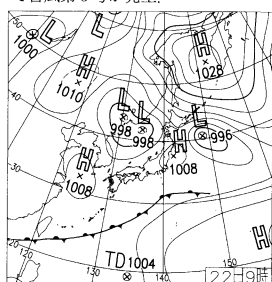
19日(水)今季最後の桜満開
 台風第2号が沖縄の南海上に北上。暖かく湿った空気が流れ込み、東日本～南西諸島は雨。屋久島の日雨量192.5 mm。北日本は晴れ。全国93観測地点の最後、釧路・根室で桜満開。



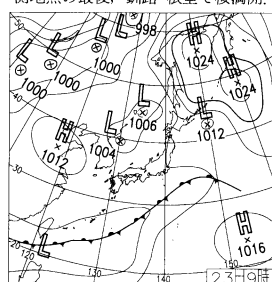
20日(木)最大瞬間風速35.3 m/s
 前線が日本の南海上に停滞し、北海道を除いて雨。屋久島で日雨量135 mm。台風第2号は南大東島の南東海上を通過。南大東島は暴風域に入り、最大瞬間風速35.3 m/sを観測。



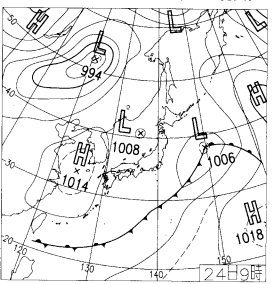
21日(金)東・西日本台風一過
 台風第2号は早朝八丈島の南を通り三陸沖に進み15時に温帯低気圧となる。北日本は雨、東・西日本は台風一過。三宅島では前線と台風により19～21日の3日間に236 mmの雨。



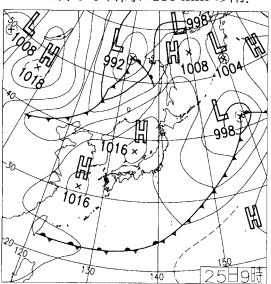
22日(土)全国的に曇雨天
 日本海の低気圧や日本の南海上の前線の影響で、全国的に曇りや雨。関東から北の太平洋側では気温が上がらず、最高気温は平年より5～10℃低い3月上旬～4月下旬並。



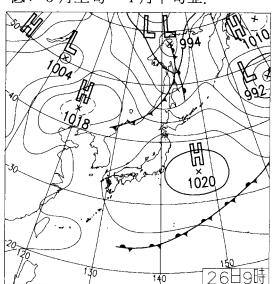
23日(日)東海以北は肌寒い一日
 前線に近い東北～紀伊半島の太平洋側は、曇りや雨で気温が低い。銚子市の最高気温は5月では5番目に低い12.2℃。その他は梅雨の南西諸島を含め晴れ。宮城県北部で震度3。



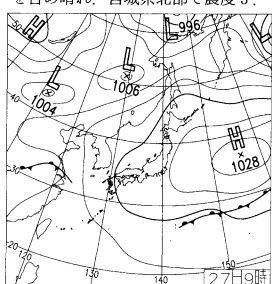
24日(月)関東以北で雷雨
 前線が日本から離れ、東シナ海の高気圧に広く覆われ全国的に晴れ。午後は北日本中心に上空約5500 mに-18℃以下の強い寒気が入り、関東から北の所々で10 mm/hを超える雷雨。



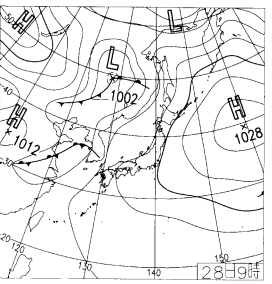
25日(火)今季初のアジサイ開花
 北日本の強い寒気は三陸沖に抜ける。朝のうち北日本の一部で雨が降るが、日中は高気圧に覆われ、ほぼ全国的に晴れ。名瀬・佐賀で紫陽花の花が開花。今季国内で初めて。



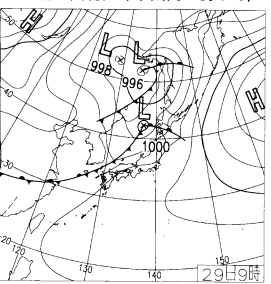
26日(水)北・東日本気温上昇
 高気圧は関東の東海上を東に進み、西から雲が広がる。西日本は晴れのち曇り。北・東日本は概ね晴れで、最高気温は平年より3～10℃程度高い。南西諸島は昼過ぎから雨。



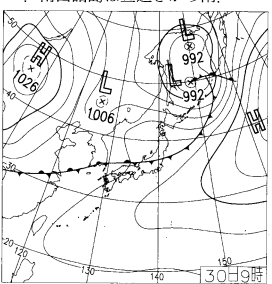
27日(木)札幌真夏並の暑さ
 東海上の高気圧は勢力を強め、日本付近に張り出す。ほぼ全国的に晴れ。関東は上空の気圧の谷の影響で所々雨。北日本には南風が入り、札幌市の最高気温は真夏並の28.2℃。



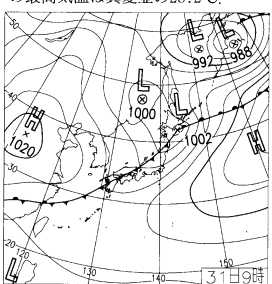
28日(金)九州北部で真夏日
 気圧の谷が接近し、東海以西の太平洋側が晴れた他は全般に曇り。南風によるフェーン現象で日本海側を中心に気温が上昇。6月下旬～7月中旬並。福岡市等、九州北部は真夏日。



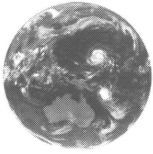
29日(土)中国地方まで梅雨入り
 日本海の低気圧が北東進し、寒冷前線が北日本を通過。北日本や日本海側は曇りや雨。東海～関東で晴れの他は曇り。九州・四国・中国地方は、昨年より11～12日早い梅雨入り。



30日(日)宮崎最高気温34.2℃
 日本海の前線に向かって温かく湿った空気が流れ込み、北陸～九州北部は雨。長崎県壱岐の芦辺町で46 mm/h。最高気温、宮崎34.2℃。奈良市32.7℃とともに5月の極値。

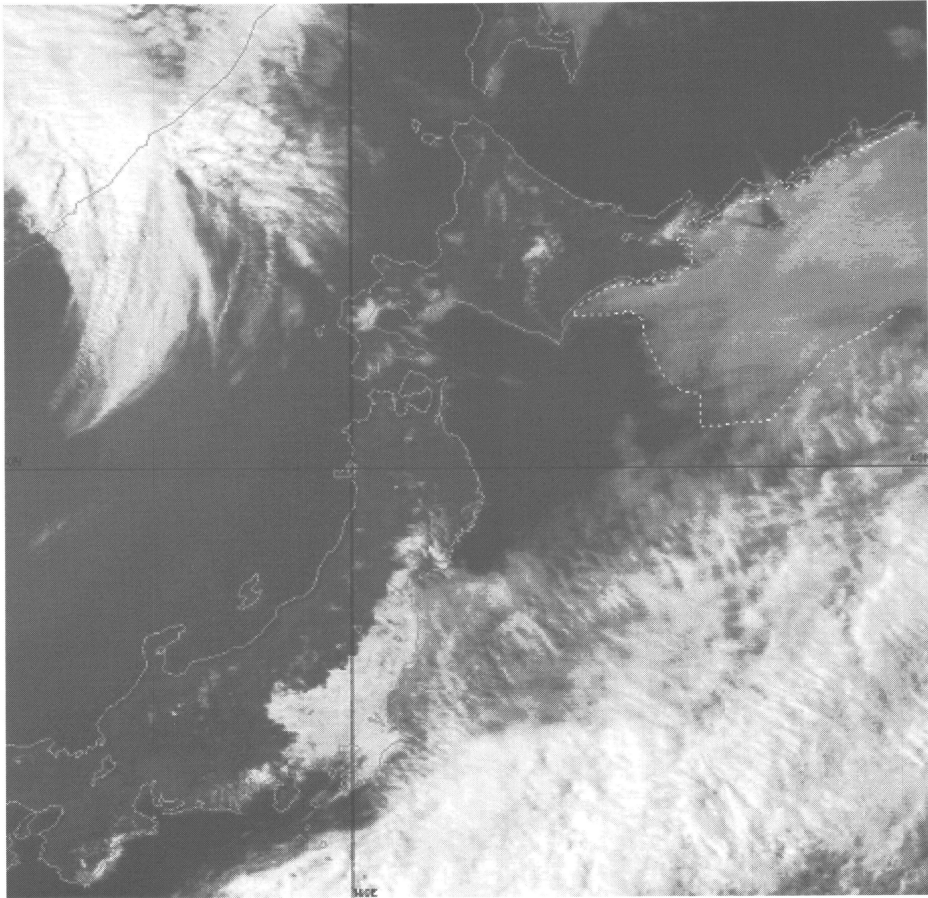


31日(月)九州で激しい雨
 日本列島を前線が通過。関東や南西諸島が晴れの他は雨。熊本県阿蘇町で54 mm/hなど、九州は激しい雨。東海・関東甲信は真夏日。栃木県佐野市の35.4℃は5月の記録更新。



今月の気象衛星画像—2004年5月

霧を含む下層雲



2004年5月6日15時の可視画像

春から夏にかけて海上の広い範囲で霧が発生することが多くなる。この霧は主に移流霧であり海霧とも呼ばれ船舶にとって重要な情報である。海霧は比較的高温・多湿な空気が冷たい海面の上に流入した際に、下層から冷やされて発生する。

写真は6日15時の可視画像である。北海道の東海上に薄い灰色でベール状に広がっている雲域（黄色の点線）が見える。これは海上で発生した霧を含む下層雲であり、根室の地上観測でも霧を観測している。6日21時の根室の高層観測によると、上空約1000 m付近に気温の逆転層が存在していることから、この雲の高さ

は逆転層より低いと考えられる。北上してきた下層雲が千島列島でさえぎられているのもこのためである。

また、宮城県付近から関東地方にかけて明灰色の雲域が見える。霧を含む下層雲域と比べると、同じ下層雲ではあるが雲頂がごつごつしており、層積雲が主体の雲域である。これは、前日関東の南岸を低気圧が通過した際に海上から流入する冷湿な北東気流がもたらした下層雲であるが、低気圧通過後も解消しなかったため、関東地方は終日曇天となり、関東各地は最高気温が平年値を大きく下回った。

(気象衛星センター)